



〈自分（たち）でつくるみんなの学校～日本一美しい学校を目指して～〉

# 成美っ子



学校だより 令和4年度No.4

自分たちでつころう「日本一美しい学校」

教頭 川岸 由美

赴任して3か月以上が経ちました。成美小学校の子供たちと接し、様々な場面で子供たちの活躍を見守ってきました。その中でも特にすばらしい成美っ子の取組を紹介します。

## 1 「成美ガーデン」での取組

「早くお水をあげないと枯れてしまうよ」「お先にどうぞ」「ありがとう」成美小学校では、朝から子供たちの明るく元気な声が聞こえてきます。成美ガーデンやファーム成美での水やりや野菜の世話を、当たり前のようにしている子供たち。生き物を慈しむ言葉、友達を思いやる言葉が飛び交っています。また、成美ガーデンには、色とりどりの花が咲き誇り、花を育てている子供たちには、植物に対する愛情が生まれています。枯らしてしまったりときには悲しみ、花が咲いたときには喜び、体験を通して生命について学んでいます。また、成長がうまくいかないときには、「どうしたら育つだろう」と考える力も身に付いています。



今年も成美ガーデンには、保護者や地域の方々のご協力のもとに、子供たちと教職員がつくった日本一美しい花が成長を続けています。

## 2 「黙働（もくどう）清掃活動」を通して

今年度から始めた黙働清掃活動。清掃活動が始まると子供たちは、清掃場所に集まり、早く来た子供は、自分の清掃内容を確認します。そして時間になると、しゃべらずに清掃を始めます。何度も何度も拭きをする子供、洗面所のタイルを隅々まで磨いている子供、自分の持ち場が終わると戸のレールや棚の中を拭いたり、ガラスを磨いたり黙々と取り組んでいます。教職員の間では「本当にできるのだろうか」と戸惑いもありましたが、いざ始めてみると子供たちは、自分の仕事に集中して取り組み、自分の仕事が終わると他に汚れているところはないかと、他の持ち場にも気を遣うことができるようになってきました。すぐに声に出して尋ねることをしないので、「次に何をすればよいか」「他にすることはあるか」まずは、自分で考えます。そして一緒に掃除をしている友達のことを考え、助け合う姿も見られるようになりました。最後まで取り組む粘り強さも育まれました。まだ始めたばかりなので、全くしゃべらずに取り組むことは難しいのですが、黙働清掃をすることを通して、自分たちの生活の場を磨き、自分の心と向き合いながら心を磨き、自分自身を見つめ直す訓練ができつつあることを実感しています。



美しいとは「きれいなこと」「みごとなこと」「りっぱで正しいこと」です。

成美小学校は、今後も子供たちと教職員、そして保護者、地域の方々とともにつくる「日本一美しい学校」を目指していきます。ご支援、よろしく願いいたします。